

事業モデル案

1 私が現在営んでいる事業は、次のような事業です。

ケーキとアイシングクッキーを受注オーダーのみで販売。
主にウエディングケーキやプチギフト

2 私が営む事業に、社会に尽くす活動を掛け合わせるとすると、次のような活動が考えられます。

日本では障がい者の就労支援として、大津市に年商が1億円を超える障害者福祉サービス事業所があり、工房で作られるオーガニック素材のクッキーが人気を呼んでおり、全国から注文が入るほど。障害者福祉サービス事業所の菓子販売としては異例の売り上げという。賃金も全国平均を上回り、低賃金とされる福祉サービス事業所の“常識”を打ち破ったという事例がある。

このビジネスモデルを海外に展開するため、後進国でも同様のビジネスモデルを実践する。まずは、アイシングクッキーの技術を教えるために現地に製菓学校を設立する。講師は、日本で活躍している障がいを持った方をお招きする。そして、その学校で作成した商品を現地国または日本で販売する。費用に関しては日本企業(食品・子供関連)や出資者からの協賛でまかなう。

3 上記2で示した活動について、次のような観点から持続可能だと考えます。

オーガニックな素材を使っのアイシングクッキーを子供たちにもする機会を与えることにより、人工的なものがなくても、美味しく綺麗なケーキを作ることができることを感じてもらい、子供たちの食材への関心やサステイナブルな素材を使用した料理を知ってもらうことで、未来へ食の魅力を次の世代につないでいく機会を作ります。また、日本のビジネスモデルを海外に展開することで、国外でビジネスを展開することのハードルを下げるのが可能となる。また、世界中の人たちへ安心・安全な食事を提供することの重要性を改めて認識することで、アイシングクッキーを通じて社会に尽くす活動につながると考えます。